

氏名	宮 脇 昌 二
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	甲 第 269 号
学位授与の日付	昭和43年3月31日
学位授与の要件	医学研究科内科系内科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目	汎発生紅斑性狼瘡に関する免疫学的研究 第1報 遺伝並びに自己抗体の検索 第2報 実験的研究
論文審査委員	教授 大 藤 真 教授 平 木 潔 教授 小 坂 淳 夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

(第1報) 5名のSLE患者の家系調査を行ない、2名のSLE患者を有する1家系と健康ANF保有者6名を見出し、本症の発生に遺伝的素因が強く作用している事、又同時に性腺-副腎皮質-抗体産生組織系の異常の存在が無視する事の出来ない条件である事を強調した。次に11例のSLE患者の血清蛋白像、LE細胞、抗核抗体(ANF)を検索し、これらと本症との特異性、諸種検査方法の優劣、免疫グロブリンよりみた抗体の性状、抗原の分析、更には治療による変化等について検討を加え種々の知見と考察を記載した。

(第2報) SLEの実験的モデル作製を目的として、2, 3の方法を試みた。即ちHydralazine, 卵白遷延感作, 抗家兎細胞核ラツテ血清等を家兎に投与し、溶血型貧血の発生や弱いながら一部家兎にLE細胞, ANFが陽性に出たが、典型的な本症のモデル作製は失敗に終わった。そして動物界に於ても自己抗体の出現や自己免疫疾患の出現に遺伝的素因や内分泌学的異常が強く関与している可能性を推定し強調した。

(昭和43年4月, 岡山医学会雑誌, 第80巻3.4号に掲載予定)

論文審査の結果の要旨

本研究は汎発性紅斑性狼瘡に関して免疫学的に研究したものである。SLE患者の家系調査を行ない、本症の発生に遺伝的素因と性腺－副腎皮質－抗体産生組織系の異常が必要条件である事を強調した。又、SLE患者の血清蛋白像、自己抗体の検索を行なった。次に2, 3の実験を試み、溶血型貧血の発生や一部家兎にSLE類似疾患を作る事に成功し学術上価値あるものと認める。

よって本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。